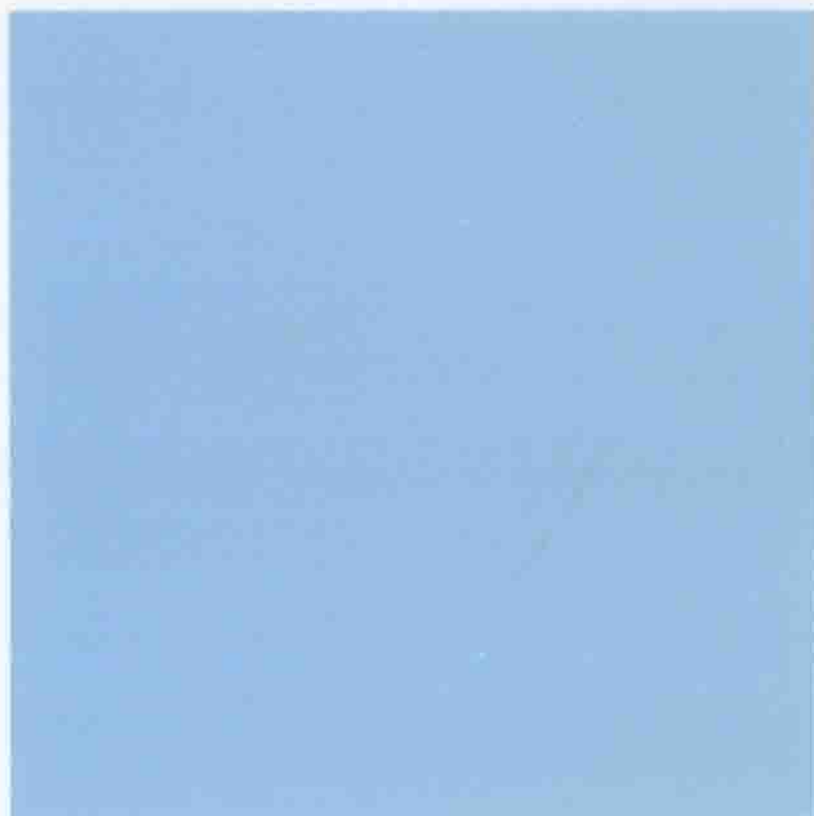


22歳からの国語力

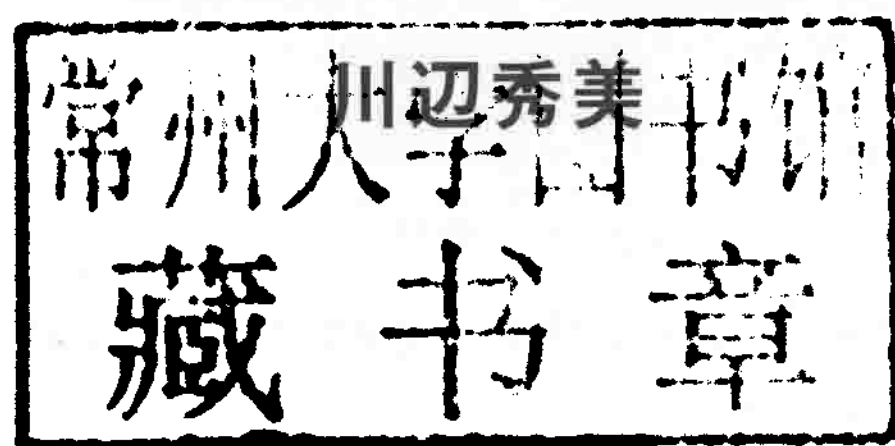
川辺秀美



講談社現代新書

2035

22歳からの国語力



講談社現代新書

2035

N.D.C. 361 205p 18cm

ISBN978-4-06-288035-0

講談社現代新書 2035

22歳からの国語力

二〇一〇年一月二〇日第一刷発行

著者

川辺秀美

© Hidemi Kawabe 2010

発行者

鈴木哲

発行所

株式会社講談社

電話

東京都文京区音羽二丁目二二-二 郵便番号 112-8001

出版部 〇三-五三九五-三三二

販売部 〇三-五三九五-五八一七

業務部 〇三-五三九五-三六一五

装幀者

中島英樹

印刷所

大日本印刷株式会社

製本所

株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

〔R〕（日本複写権センター委託出版物）

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

複写を希望される場合は、日本複写権センター（〇三-三四〇一-二三八二）にご連絡ください。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。



目次

プロローグ 社会人の基礎技術って何をどのように学ぶの？

社会に出てから仕事に役立つ技術って？ 9

国語力とは「読む」「聴く」「話す」「書く」総合力のこと 10

「22歳からの国語力」は、どこで生まれたのか？ 11

ビジネス書籍を編集して気づいた、基礎能力の問題 13

独立後に知った、自分の能力のなさ 16

仕事とは、自己紹介のこと 17

個人の能力が明確に問われる時代 19

本書の読み方 七つの鍵を使いこなせ

第一章

22歳になった時に問われる、たった一つの質問

あなたは一つの問いだけに集中すればよい 28

さらば、教養としての国語よ 32

従来の国語力vs.22歳からの国語力 34

国語力を磨けば、数学力も英語力もアップする 37

国語力とはサッカーである 40

守りと攻めのバランスをどうとるか 44

「読む」「書く」を鍛えることは走り込みに近い 46

情報という引力 48

言霊は存在する？ 50

国語力とはゼロ地点に立つ方法 52

あなたの現時点の答えを書いてみましょう 56

第一章のまとめ 58

第二章 司馬遼太郎を読みこなせ（読む力）

キミは司馬遼太郎を読んでいるか？ 60

地味だが、もっとも基本的な「読む技術」 63

好き・嫌いリストを作成する 66

四つのジャンルでアタリをつける 70

多読というコンセプト 73

月に一〇冊読めば上位5%の読書家である 75

社会人になったら読むべき本とは？ 78

名言ノートを作ろう 80

三日坊主で終わらないために 83

速読法① 定規黙読法 88

速読法② ○付け法 90

熟読法 ブルー・ブラック・レッド・マーキング 92

質の読書への手がかかり 94

行動する読書 96

いま読んでいる本を、一言で言う 98

第二章のまとめ 102

第三章 伝える文章を書く（書く力）

伝える文章には七つの要素がある 106

「何」を伝えたいのか？ 「WHAT文」の基本 110

じつはプロでも書けないWHAT文 113

仕事では、キャッチコピー文を多用する 116

伝達文の基本——他人への配慮を鍛える 120

メールではなく、手紙を活用する 123

うまく書けない人は「3」を使い！ 126

文章は背景整理が九〇% 128

文章を書くための最低限の道具 131

八〇〇字でエッセイを書いてみよう 133

文章は頭で悩むな、手で悩め 136

第三章のまとめ 139

第四章

他者という視点を獲得する（聴く力・話す力）

言語の裏にある、本当の言語を見つけよう 142

一対一に強くなる方法 145

聴く技術には三つある 148

編集インタビューの技術 151

カウンセラーの傾聴技術 153

コンサルタントの聴く技術 155

聴き書きしてみる 161

話す技術は、キャッチボールのように 164

相手を褒めてから話す 167

「ありがとう」が重要です」ははっきりと伝えよう 169

第四章のまとめ

172

第五章 個性は引き算である（編集力）

オリジナリティという幻想 174

「①私が（WHO）」を深掘りしてみよう 176

「やりたいこと」から「できること」へ編集する 178

差異性を一つだけ獲得せよ 182

編集の代表的な原則 184

メールを編集してみよう 187

止めることで、頭をクリアにしよう 194

説得力の鍵はエピソードにある 198

七つの鍵をポケットに 200

第五章のまとめ 203

あとがき 204

22歳からの国語力

川辺秀美

講談社現代新書

2035

目次

プロローグ 社会人の基礎技術って何をどのように学ぶの？

社会に出てから仕事に役立つ技術って？ 9

国語力とは「読む」「聴く」「話す」「書く」総合力のこと 10

「22歳からの国語力」は、どこで生まれたのか？ 11

ビジネス書籍を編集して気づいた、基礎能力の問題 13

独立後に知った、自分の能力のなさ 16

仕事とは、自己紹介のこと 17

個人の能力が明確に問われる時代 19

本書の読み方 七つの鍵を使いこなせ

第一章

22歳になった時に問われる、たった一つの質問

あなたは一つの問いだけに集中すればよい 28

さらば、教養としての国語よ 32

従来の国語力 vs. 22歳からの国語力 34

国語力を磨けば、数学力も英語力もアップする 37

国語力とはサッカーである 40

守りと攻めのバランスをどうとるか 44

「読む」「書く」を鍛えることは走り込みに近い 46

情報という引力 48

言霊は存在する？ 50

国語力とはゼロ地点に立つ方法 52

あなたの現時点の答えを書いてみましょう 56

第一章のまとめ 58

第二章 司馬遼太郎を読みこなせ（読む力）

キミは司馬遼太郎を読んでいるか？ 60

地味だが、もっとも基本的な「読む技術」 63

好き・嫌いリストを作成する 66

四つのジャンルでアタリをつける 70

多読というコンセプト 73

月に一〇冊読めば上位5%の読書家である 75

社会人になったら読むべき本とは？ 78

名言ノートを作ろう 80

三日坊主で終わらないために 83

速読法① 定規黙読法 88

速読法② ○付け法 90

熟読法 ブルー・ブラック・レッド・マーキング 92

質の読書への手がかかり 94

行動する読書 96

いま読んでいる本を、一言で言う 98

第二章のまとめ 102

第三章 伝える文章を書く（書く力）

伝える文章には七つの要素がある 106

「何」を伝えたいのか？ 「WHAT文」の基本 110

じつはプロでも書けないWHAT文 113

仕事では、キャッチコピー文を多用する 116

伝達文の基本——他人への配慮を鍛える 120

メールではなく、手紙を活用する 123

うまく書けない人は「3」を使い！ 126

文章は背景整理が九〇％ 128

文章を書くための最低限の道具 131

八〇〇字でエッセイを書いてみよう 133

文章は頭で悩むな、手で悩め 136

第三章のまとめ 139

第四章

他者という視点を獲得する（聴く力・話す力）

言語の裏にある、本当の言語を見つけよう 142

一対一に強くなる方法 145

聴く技術には三つある 148

編集インタビューの技術 151

カウンセラーの傾聴技術 153

コンサルタントの聴く技術 155

聴き書きしてみる 161

話す技術は、キャッチボールのように 164

相手を褒めてから話す 167

「ありがとう」ございます」ははっきりと伝えよう 169

第四章のまとめ 172

第五章

個性は引き算である（編集力）

173

オリジナリティという幻想

174

「①私が（WHO）」を深掘りしてみよう

176

「やりたいこと」から「できること」へ編集する

178

差異性を一つだけ獲得せよ

182

編集の代表的な原則

184

メールを編集してみよう

187

止めることで、頭をクリアにしよう

194

説得力の鍵はエピソードにある

198

七つの鍵をポケットに

200

第五章のまとめ

203

あとがき

204